



第12号 2015.7.31 発行  
発行者：株式会社協進印刷  
編集者：JO 編集委員会

## 人間性を取り戻すための 自然に触れあう体験を 後押しできたらと思います。

横浜市議員 古川直季さん



横浜市議員。自民党横浜市支部連合会総務会長。  
明治大学政治経済学部卒業後、横浜銀行、議員秘書を経て平成7年横浜市  
議員に26歳で最年少当選。今年4月の統一地方選挙では6期目の当選を  
果たす。FM横浜でDJ栗原治久さんがパーソナリティをつとめる「モー  
ニング ステップス」のMC。 <http://www.furukawa2002.com/>

江森：古川さんとは横浜青年会議所時代からかれこれ10年以上のお付き合いでありながら、なかなか真面目な話をする機会がなかったのですが（笑）、まずは古川さんが政治家を志したきっかけからお聞かせいただけますか。

古川：こんなこといふときれいごとに聞かせるかもしれないけど、人生1回きりですから、人を幸せにする仕事がしたいなという思いが強くて、子どものころから医師、弁護士、消防士、自衛官、学校の先生…色々な職業に興味がありましたね。あまりに色々な興味がありすぎちゃって、ひとつ一つへの関わりは浅くても、法律や制度を通じて広い分野に関われるというので、政治家に憧れましたね。なれると思ってなかったですけどね（笑）。

江森：具体的にはいつ頃から活動を始めたのですか。

古川：高校の頃から興味を持ち始めて、明治大学の「雄辯部」というクラブに入って、先輩にも政治家や秘書の方がいましたので、色々教えていただきました。ただ当時は「若い政治家」が今のようにはやされていたわけではなくて、どちらかというと「若さ」というのは「たよりなさ」「経験不足」とマイナスイメージにとられることが多かったもので、すぐに立候補なんてことは考えていませんでした。それで横浜銀行に就職して、まあ10年ぐらいいま真面目に銀行に勤めれば、地域の皆さんも認めてくれるのかなあ…なんて漠然と考えてましたね。

江森：でも初当選は26歳でしたよね…  
古川：その話をするとき長くなっちゃうんですけど（笑）、ある議員さんから声をかけていただいたので立候補を決意したのですが、宮沢内閣の解散などがあって、その話が白紙になってしまったんですよ。でも銀行も辞

めてしまってますから戻ることもできず、紆余曲折を経てなんと平成7年に初当選させていただいたということですよ。

江森：意外と激動の人生なんですね（笑）。今年で議員生活20年ということですが、ここまでやってきてどうですか。

古川：学生時代に聞いたアメリカの政治家の言葉ですが、政治は「妥協の芸術」だというんですね。人は10人いたら10通りの考え方があって、みんなが満足、みんなが納得なんてことあり得ないじゃないですか。誰かが満足しても誰かが不満を持ってしまう。それを調整するのが政治の役割で、時にお互いに妥協というか我慢していただかなければならないという意味だと思いますが、そのバランスが大変難しいと感じています。

江森：私は国民を「気持ちよく我慢させる」のが優れた政治家だと思ってますよ。同じ

我慢するなら気持ちよく我慢させてくれよと、いち国民としてはいつも思ってますね。

古川：はあ、勉強になるなあ（笑）。そういう意味では、昨今の安保法制の問題などは、大変難しい問題だとは思ってますが、「自分たちの国をいっただうやって守るのか？」という根本的なところでの議論がされてないというか、みんながしたくないというか、そんな気がしていますね。

江森：そうですね、個人の権利は主張するけれども、社会全体のことを気にかけないというか、何か個人が社会の外にいて、そこから社会を批判しているあるいは傍観しているような感覚があるような気がしていますね。本来自分たちの社会なんだから、個人は社会の中にいるものであって、外から批判などできるはずもないんですけどね。

古川：社会どころか家族でさえ絆が失われてきているような気がしませんか。最初か

ら個人個人別行動というか。我々が子ども頃はもう少しつながりが深かったですね。

江森：そうですね、いつからこうなっちゃったんですかね…

古川：学術的には色々な説があるんですけど、僕がころころがけているのはもつと「つながり」を大事にしようということなんです。昨日もマンシヨンの管理組合の理事会があったので、そこで「一度みんなでご飯食べましょうよ」って提案したんです。そうしたら「いいですね」ってことで今度やることになったんですが、マンシヨンなんてそもそも近所付き合いが煩わしいと思ってる人が好んで住むところなのに、そういう提案にみんなが賛成するというのは、人とのつながりや安心感みたいなものをみんなが求め始めているんじゃないかと思えます。そこは政治行政ももっと意識した方がいいと思うんですね。今まではそ



んなこと「個人の勝手」であって、行政が口を出すようなことじゃなかったんですけど、いまはもつと意識的に、人と人がつながりを持ってたり、交流できるような事業を考えていくべきですね。

江森：ひとり一人が社会の中で「生かされている」ということを意識できる「体験」が日常の中にたくさんあればいいんですけど…

古川：まさに江森さんがおっしゃるように、体験しないとわからないことってたくさんあると思うんですね。例えば、日頃仕事で忙しかったり、パソコンや機械と向き合うことが多かったりするものが原因で人間性が失われていってしまうのではないかと仮定するならば、もつと土に触れるとか農業をするなどという「体験」が、本来の心を取り戻す役目を担ってくれるんじゃないかとか。この椅子にしても壁のクロスにしても、私たちは日頃化学物質に囲まれて暮らしているわけなんです。それを自然の木にしてみたら、本来の人間性を取り戻せるんじゃないかとか、そんな仮説を立てているんですね。

だから農業体験ができる公園や市民農園などももつと増やすべきだと思ってますし、公共建築物を木造にしようという法律もあるんです、それももつと活用すべきだとも思っています。

江森：そんな法律あるんですか。知らなかったなあ…

古川：あまり知られてないですよ。森を維持するためには、ある程度木を伐採してやらなければいけないので、国の政策として公共建築の木造化を推進しているんですが、罰則規定もありませんし、技術的に木



か、わからないこと、知らないことに挑戦しようという意欲が薄れてしまっていると思えますね。

古川：もつと人の良さを引き出すような施策を考えないといけないですね。そういう意味では、CSRでどんどん社会に目を向けて、一緒に社会を良くしようとかんばってくれる企業が増えてきますし、そういう企業の方たちと行政が一緒になってまちづくりに取り組んでいくべきだと思います。

江森：これから政治家として、どのように活動していきたいと考えていますか。

古川：若手改革派の首長のように「改革するぞー！」って言ってみんなを引っ張って行くようなリーダーも素晴らしいと思いますが、僕ははつきりいってそういうタイプじゃないですね(笑)。確かに政治家にはリーダーシップが求められていると思えますし、明確な政策ビジョンも必要だとは思いますが、これからの時代は少し変わってくるんじゃないかという気もしています。昔みたいに経済が確実に上向くことがわかっていて、財源もたくさんあるなかで、それを福祉に使うのか、道路を作るのか、ということを決められた時代だったら、「あれもやります、これもやります」という政治スタイルで良かったかもしれないけど、これからはそういう時代じゃない。だとすれば、国民の皆さんに厳しいことでもこれだけはお願したいんだということを政治家が正直にいうこと、そういうリーダーシップが求められているんじゃないかと思えます。政治家としてこれ！というように明確なものではありませんが、そんな「みんなと一緒にやっていく」タイプの政治家として活動していければいいと思っています。

造の高層建築がまだまだ難しいというので、なかなか進んでいないようですが、技術的な問題はだいたい解決されつつあるようです。横浜市でも保育園や学校の内装を木にしていこうとか、前向きに検討され始めています。

江森：横浜市もいろいろなことに取り組んでいますね。最近横浜市の職員の方と接する機会がとて多くなってきたので、優秀な方が多いなあと感じます。人材の宝庫だと思えますね。

古川：そうですね、もつともつと活かした方がいいですよ。確かに役人の不祥事などもあることは確かなんですが、メディアが不祥事と同じぐらいいいことをした役人の記事にも紙面を割いてくれるといいんですけどね。

江森：いいですねえ。悪いことばかりクローズアップされるから、事なかれ主義という

# 全印工連CSR認定制度

## 「ツースター認定」が平成27年4月にスタートしました



プマネジメント・インタビュー、システムの適合性審査、システムの有効性審査、取り組みについてのヒアリング、危険物取扱・5S等に関する現場審査などの項目となります。

全日本印刷工業組合連合会（島村博之会長、以下全印工連）では、平成25年度から、CSR

定の「ツースター認定」の内容についてお伝えします。

の取り組み有効性評価は、ワンスターのチェックリスト方式とは異なり、1つのCSR項目につき3つまでの取り組みを、対象となるステークホルダーや経営上の効果を考察しながら記述する方式となり、CSRが企業の経営戦略に結びつき、事業の目的に沿ったものになっているかより詳しく評価されます。

（企業の社会的責任）に積極的に取り組む企業を認定する制度として、「全印工連CSR認定制度」を運用してきましたが、初年度にワンスター認定を取得した企業が平成27年度に更新の時期を迎えるにあたって、「ツースター認定」の制度がスタートしました。すでにワンスター認定を受けている企業は、ワンスターとして更新するか、ツースターへステップアップするかを選択することになります、ここでは上位認定の「ツースター認定」の内容についてお伝えします。

上位認定にあたる「ツースター認定」を取得するためには、CSRマネジメントシステムがより高いレベルで社内定着していることが求められます。そのためワンスターとは評価方法も異なり、ツースターの審査においては、書類審査の他に現地審査が加わります。

書類審査では、マネジメント・システムとCSRの取組み有効性の2つの側面から、運用状況や取り組みの意義を評価します。CSR

現地審査は審査機関である横浜市立大学CSRセンターの審査員によって実施され、CSRが社内定着しているかどうかを、直接現地に訪問して確認します。具体的には、トップ

更新するか、ツースターへステップアップするかを選択することになります、ここでは上位認定の「ツースター認定」の内容についてお伝えします。

現地審査は審査機関である横浜市立大学CSRセンターの審査員によって実施され、CSRが社内定着しているかどうかを、直接現地に訪問して確認します。具体的には、トップ

期待されます。印刷業界全体としてのレベルアップにつながる制度として、社会からの注目が高まることを期待しています。

永続的成長企業へと発展していくことが大いに期待されます。印刷業界全体としてのレベルアップにつながる制度として、社会からの注目が高まることを期待しています。



## オンガクに、ありがとう

竹見正一



### AZTEC CAMERA "KNIFE"

時は1985年、盛夏の訪れを告げる宵越しの祭りを終え、道路にも車が戻りいつもの喧噪を取り戻しつつある地方都市の午後4時。大会を前にプールでたっぷり泳いだぼくは、ガラス越しの日差しが焼けた肌をひりひりさせる窓際席で、水泳部の同級生とローストビーフバーガーを必死になって頬張っていました。ここアビーズは当時のマクドナルドやロッテリアにはなかった、《ソース調整はご自分でご自由にシステム》が新鮮で、とくに酸味の効いたホーシーソースを好んで大量注入し、時を忘れジャンクに酔いしれるために通っていました。ぼくがまだ半分も食べていないとき、『引退したら塾いかなあかん』と急に隣の彼が言い出したので、あわててコーラのストローをくわえ口の中を空にし、『ほんま??おまえ勉強すんの?!』と、今となってはアホすぎる返答をしていました。一瞬静寂に包まれた気がしたぼくは、店の中をループするビルボードヒットチャート曲にすぐ引き戻されました。『アウトオブタッチ、まだうれてんのか』なんて、とりとめの無いコトバをはさみ、『せやな、勉強せなあかんわな』となんとなく合わせていました。彼は府大会など余裕で通過するレベルの選手で、部活後スイミングスクールにも通っていました。なので、ずーっと水泳を続けるもんだと思い込んでいたこともあり、少々不意打ちをくらった感じになっていました。『ほんまにやめるんけ?』『やめるわ、全部』。ぼくにとって、いつまでたってもタイムで追いつけなかった輝かしい彼が、後にも先にもこの一瞬だけ、哀しそうな顔をみせました。

店を出て、本屋前で彼と別れたぼくは、昨日壊れたウォークマンのイヤフォンを購入するため、電気街へ向かいました。並んだテレビから、好調だった阪神が少し足踏みをしている様子がながれるのを横目に、好調の近鉄こそ取材してほしいな～デビスとかもって知ってほしいねんけど、と少数派ファンとしての妬みを心に漏らしながら、オーディオコーナーへ。ナガオカやオーディオテクニカのダイヤモンド針群に目を奪われ、ナカミチのデッキにゾクゾクし、やっとこさソニー純正のイヤフォンを購入。今回は黄色にしてみた。イイ感じ。急いで近くの河原に降り、石畳にねっころがって、再生ボタンを押す。まだまだ暮れそうにない蒼すぎる青空。アタマの中には冬からずっと聴いているアズティックカメラ。透明な音色に押し出されモクモクとこみ上げてくる灰色の衝動を、空へ空へと吐き出していた中学最後の夏。ああ、オレンジジュースも持ってくるんやった。もう少しだけここにいたいから。



## ヒマラヤキッチン

大口の魅力を紹介する「大口自慢」今回は、インド・ネパールレストラン「ヒマラヤキッチン」さんをご紹介します。

大口駅から徒歩1分という便利な場所にあり、本格的なカレーが食べられるということで地元でも評判のお店です。5年目を迎える「ヒマラヤキッチン」の店長カトリ・レム・バドルさんは、ネパールの出身。本場ネパール料理とインド料理の美味しさが存分に味わえるお店です。

ランチメニューは、チキンカレー、キーマカレー、マトンカレーなど、6種類のカレーから選ぶことができ、辛さの調節もしてくれます。また、注文を受けてから焼き上げる炭火焼のナンは、味も大きさも言つことなし！しかも、ナンとライスはお代わり自由です。ランチは、「カレー、ナン（またはライス）、サラダ、ドリンク」のセットで、650～800円。ドリンクは、プレーンラッシュー、バナナラッシュー、チャイ、コーヒーなどから選べるのも嬉しいところ。（ランチタイムは午前10時～午後5時まで）



また、ディナータイムはカレー以外のお料理も充実。人気メニューは、タンンドーリチキン、ガーリックポテト、オニオンリング、チキンチリなど。店長さんおすすめの「蒸し餃子風のネパール料理「モモ」」もどろどろ輸入ビールの種類も豊富で、ついついお酒が進んでしまいそうです。そして、テイクアウトは「カレーとナンのセット」で、なんと500円！自宅でも本格的なカレーを堪能できるということで、家族の人数分を持ち帰るお客さまが多いとか。暑い夏こそカレー！是非一度、お試しください。

### ヒマラヤキッチン

横浜浜市神奈川区大口通127の3

☎：045(401)2700

営業時間：午前10時～午後11時

（ラストオーダー：午後10時30分）

定休日：なし（月1回 月曜日休み）

# 大口自慢

## Kyoshin TODAY

### 4月の「ありがとうの日」は、春を告げる俳句10選、でした



協進印刷では、毎月10日を「ありがとうの日」として、ステークホルダーの皆さまへの感謝の気持ちをこめて、ささやかな贈り物をしたり、近隣でのボランティア活動をしています。

4月の企画は「俳句集」。春の暖かな日差しの中、言葉の贈り物をしようと考えました。「春を告げる俳句10選」として、先人たちが詠んだ珠玉の俳句の中から10句を選びました。心に届く一句がありましたら幸いです。

〈俳句集より〉  
若あゆの 二手になりて のぼりけり (正岡子規)  
春風や 闘志いだきて 丘に立つ (高浜虚子)  
うつくしや 雲雀の鳴きし 迹の空 (小林一茶)

### 「CSR入門セミナー」開催

ステークホルダーの皆さま向けの「CSR入門セミナー」を6月4日、横浜・関内の多目的スペース「さくらWORKS」にて開催しました。

経営戦略としてのCSRに、当社を含むサプライチェーン全体としてどのように取り組むべきか、参加者の皆さまと共に考え、提案をさせていただきました。

「感性の時代」と言われる現代、企業も社会も感性ニーズにいかに対応されるかが、その後の成長を大きく左右すると考えられます。また、社会的課題の解決に貢献することが、企業の存在価値を高めることにもつながります。社会の大きな枠組みの中で、「勝つか負けるか」ではなく、ステークホルダーの皆さまと「共に勝つ」経営を目指したいと願っています。ご参加いただきました皆さま、どうもありがとうございました。

### 遮熱フィルム「IQue」を導入

遮熱フィルム「IQue」は、日射量だけを調整するだけでなく、紫外線や赤外線をカットするフィルムです。硝子熱割れ原因の遠赤外線も反射し、省エネ性能は年間10%の節電効果が期待できるというマルチなフィルムです。今夏の電気使用量がどれくらい削減できるか、今から楽しみます。



〈取扱販売店〉株式会社テック高橋 0493(71)0011  
<http://www.tec-takahashi.co.jp/>

### 全印工連CSR認定制度「ツースター認定」を取得しました

本年6月、全印工連CSR認定制度「ツースター認定」を取得しました。ツースターから義務づけられた現地審査では、審査員の方々から数多くの示唆をいただき、今回のツースター認定を通じて多くの学びを得ることができました。これからもCSRの取り組みにさらに磨きをかけ、地域のために役立つ企業であり続けられるようがんばります。

JO(ジエイ・オー)2015年7月号(第12号)

発行者：株式会社協進印刷

横浜市神奈川区大口仲町108番地

TEL：045(431)6611

FAX：050(3730)6273

URL：http://www.kyoshin-print.co.jp

